



江南区の将来に向けた中学生へのアンケート結果について（概要）



1. 目的

江南区自治協議会では、平成24～26年度に小学生を対象に区内各地区の「好きなところ」「自慢したいところ」「どんなまちにしたいか」などをワークショップ形式で実施し、区や自治協議会の取り組みなどに生かしてきた。

「子ども会議」開催から期間が経過したことから、今年度は中学生を対象に区に対する意向調査を実施し、区や自治協議会の取り組みなどについての捉え方を把握するほか、自治協議会での各種活動を行う上での参考資料として取りまとめるものである。

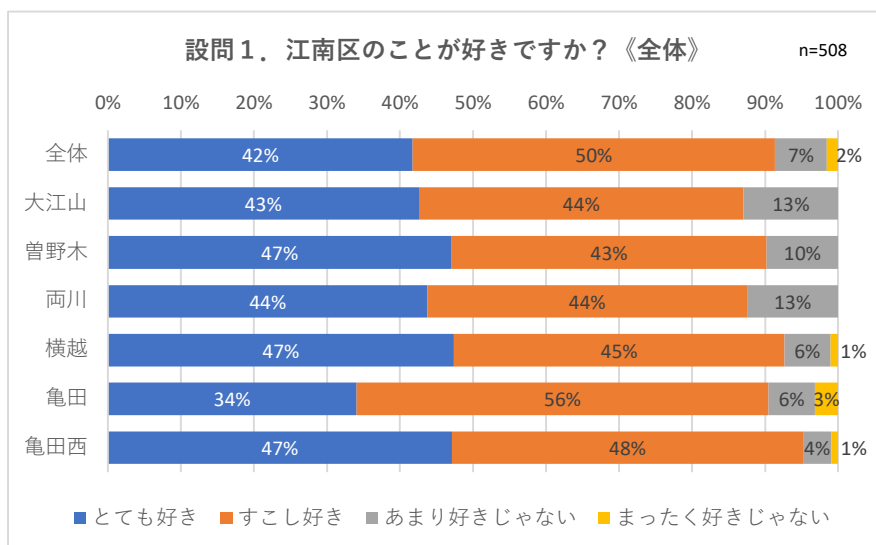
2. 回答数

学校名	回答日	回答数	うち男	うち女
大江山中学校	2021/2/19,22,25,26	54	24	30
曾野木中学校	2021/2/22	51	26	25
両川中学校	2021/2/18,19	16	7	9
横越中学校	2021/2/16	95	55	40
亀田中学校	2021/2/16,17,19,22	188	85	103
亀田西中学校	2021/2/19,3/2	104	48	56
計		508	245	263

3. 結果

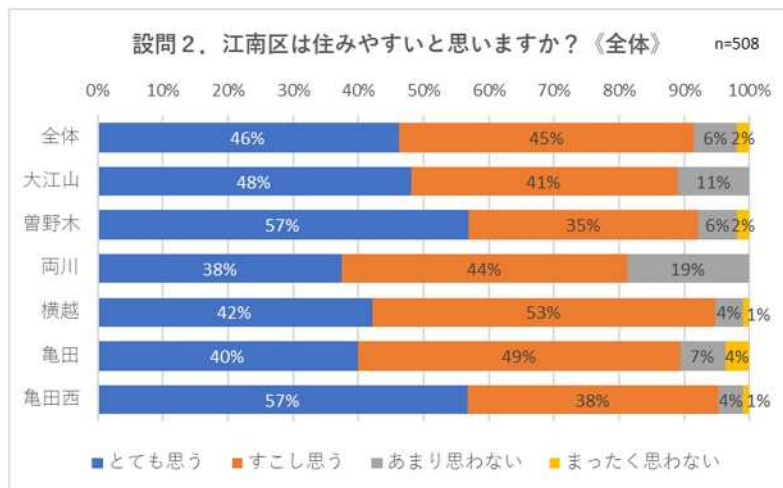
設問1 「自分が住んでいる江南区のこと好きですか」

「とても好き」「すこし好き」の肯定的意見は全体の90%前後を占めた。そのうち「とても好き」は半数近くに迫ったこともあり、区内の中学2年生は江南区のことを好きと考えてよいと思われる。



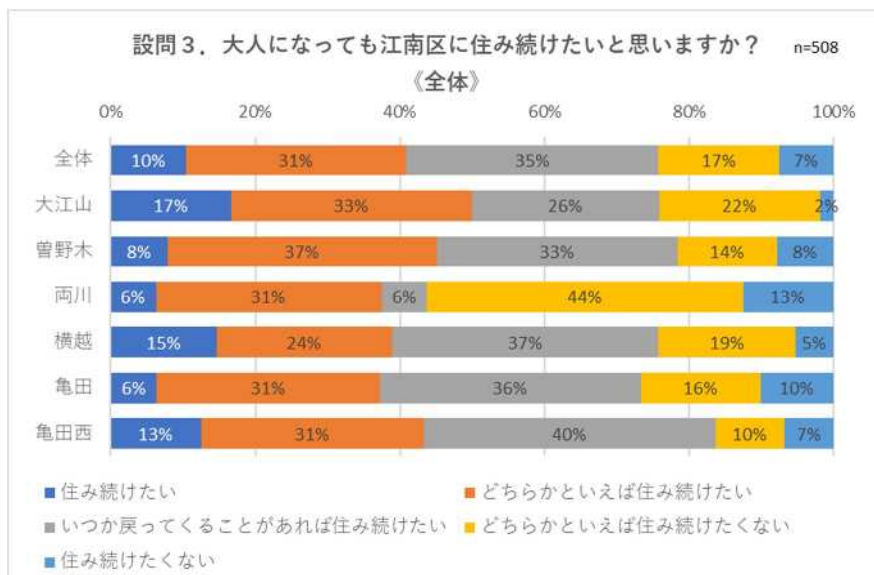
設問2 「江南区は住みやすいと思いますか」

「とても思う」「すこし思う」の肯定的意見は全体の90%前後を占めた。そのうち「とても思う」は半数近くに迫ったこともあり、区内の中学2年生は江南区のことを住みやすいと考えて良いと思われる。



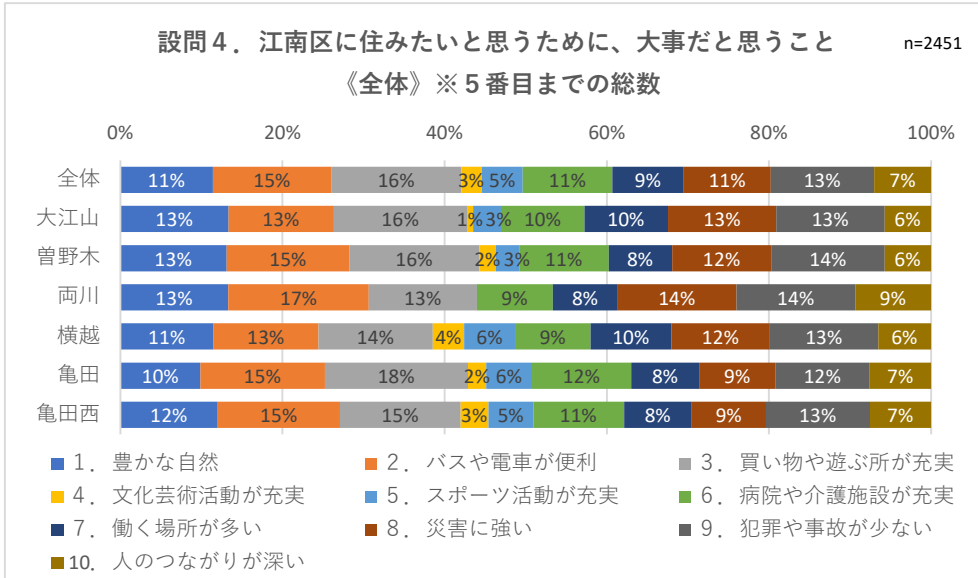
設問3 「大人になっても江南区に住み続けたいと思いますか」

「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」の肯定的意見は全体の40%前後であった。江南区が「好き」「住みやすい」といった肯定的な回答した生徒のうち、「住み続けたい」と回答したのは半数強であり、将来の不確かさが表れたと思われる。



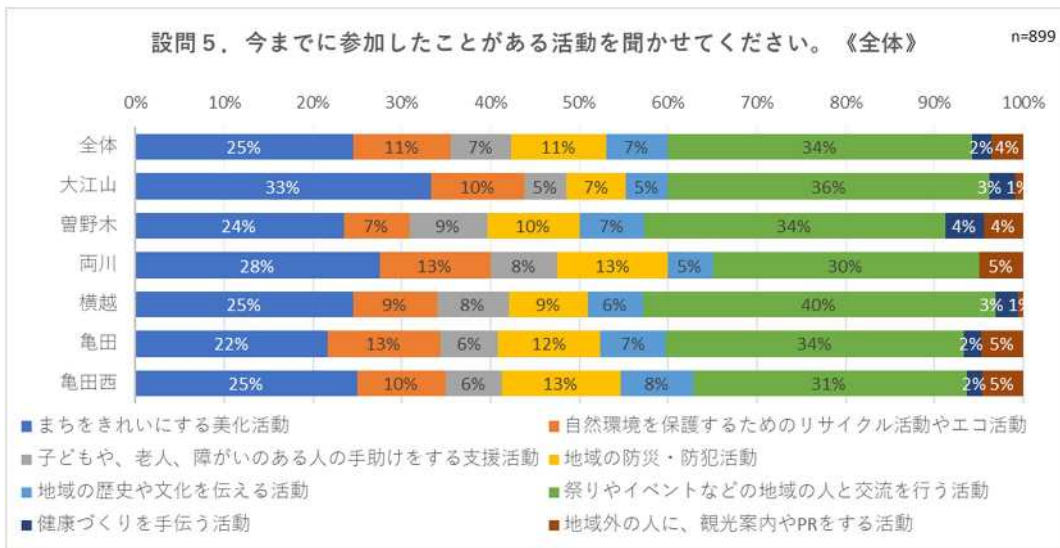
設問4 「大人になっても江南区に住みたいと思うために大事なこと」

「買い物や遊ぶ所が充実」「バスや電車が便利」が上位に選ばれる傾向がみられた。公共交通機関の利便性向上により買い物や遊ぶ場所への移動容易性が確保されることも考慮すると、子どもたちの足の確保が住み続けたい気持ちの高まりにつながる可能性がある。



設問5 「今までに参加したことがある活動」

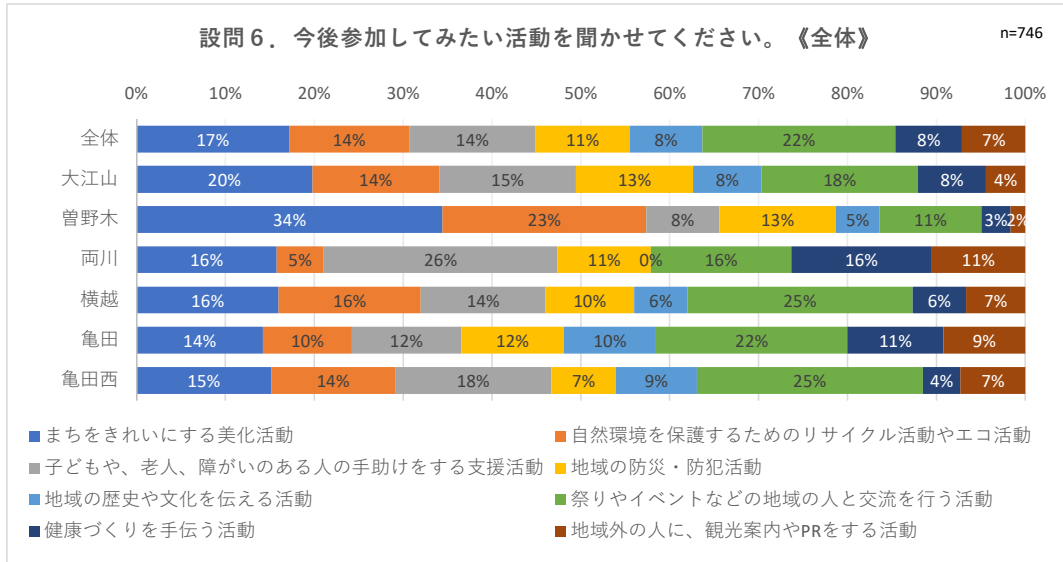
各学校での全体的な傾向は変わらず、「まちをきれいにする美化活動」「祭りやイベントなどの地域の人と交流を行う活動」が最も多かった。特に地元の祭りへの参加経験がどの学校も1/3以上あり、地域性を表していると考えられた。



設問6 「今後参加してみたい活動」

曾野木では「まちをきれいにする美化活動」の比率が多かった。

横越、亀田、亀田西では、「祭りやイベントなどの地域の人と交流を行う活動」の比率が高かった。



設問7 「江南区が全国的に有名になるには、どうしたらよいか」

区の魅力紹介として、亀田縞、亀田まつり、藤五郎梅、米、酒、亀田製菓、自然などの回答がみられた。区の特徴や良さを深掘りし、インターネット等を活用して世界に発信・交流するなど、比較的簡単にできる取組から進めていくことが望まれる。

紹介の方法として、SNS、動画サイト、ポスター、インターネット、CMなどの回答がみられた。

江南区が全国的に有名になると何がかわるのか、どういう良さがあるのか、など中学生が自分たちの住む地域のことを考えるきっかけとして意見を活用することが望まれる。

(一部抜粋)

- 江南区の自慢できるところを、SNSを使って発信する
- 亀田祭り、亀田縞を有名にする
- 受け継がれている伝統をもっと広めていく。
- 子供たちが駅などで江南区の良いところをPRする
- 若者にあった情報を発信する
- 今までの発想を覆すような考えを持ってPRすると思う
- 観光スポットを増やす
- 遺跡などの観光ツアーを開催したり、コロナが収まったらお祭りをもっと大規模にしたりして、観光客を呼ぶ
- 自然と人がうまく関わり合った住みやすい街にする
- 交通機関を発達させる。江南区にある歴史的な資源や自然などを利用して他の地域ではできないようなことを企画する。また、資源を広くPRする。